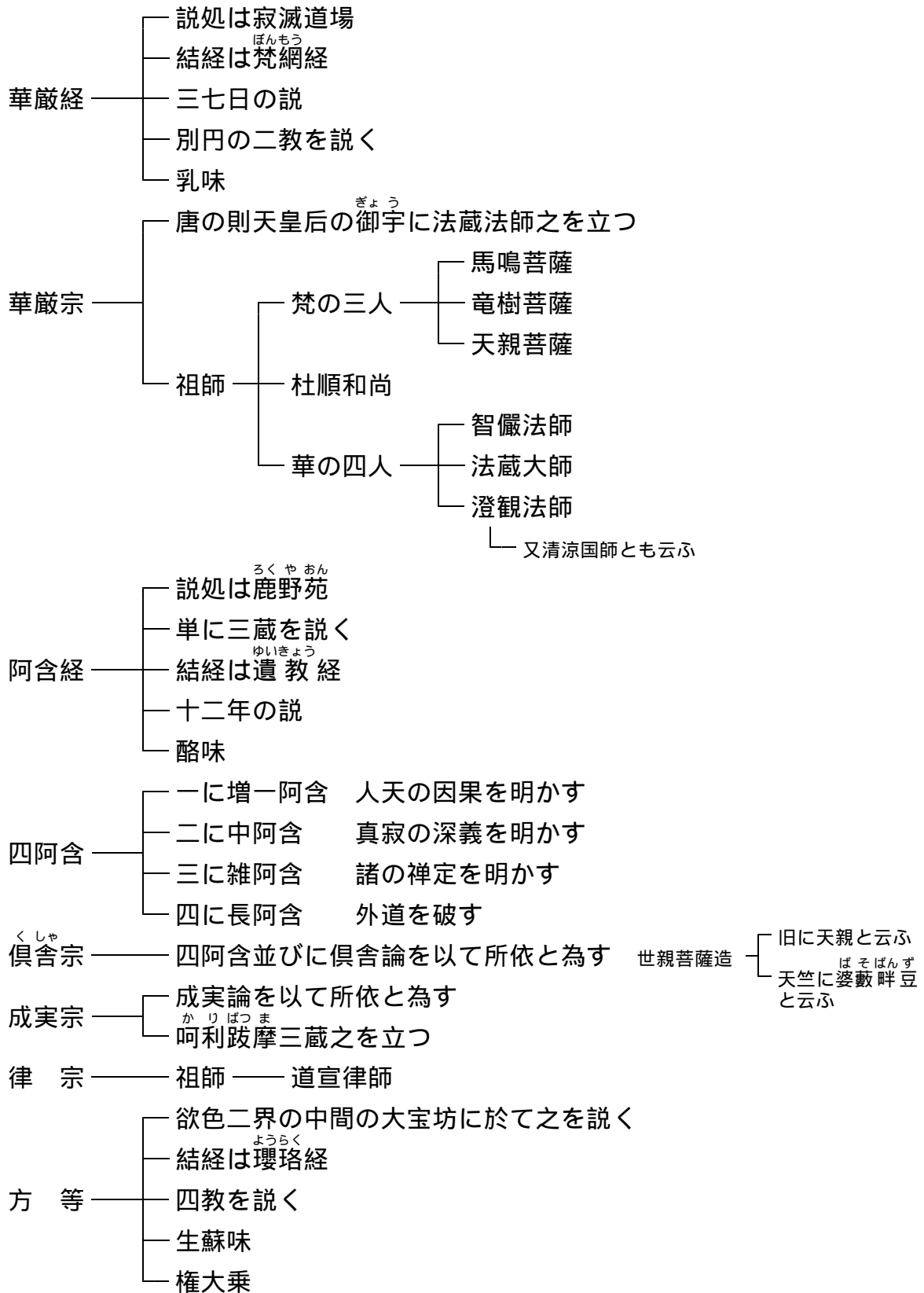
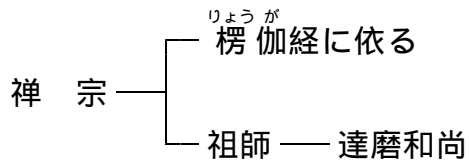
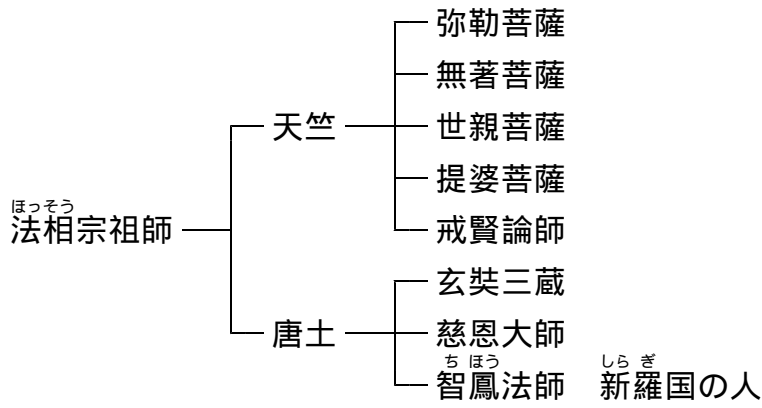


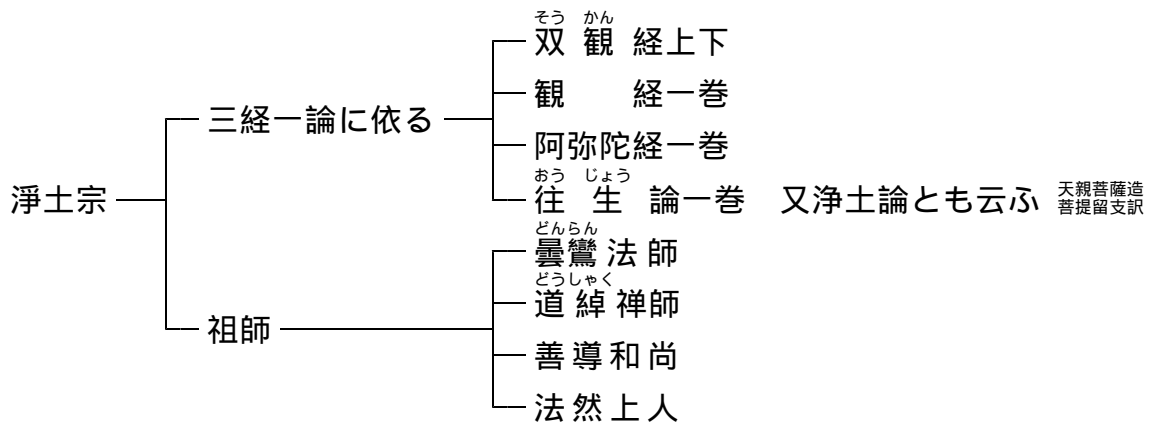
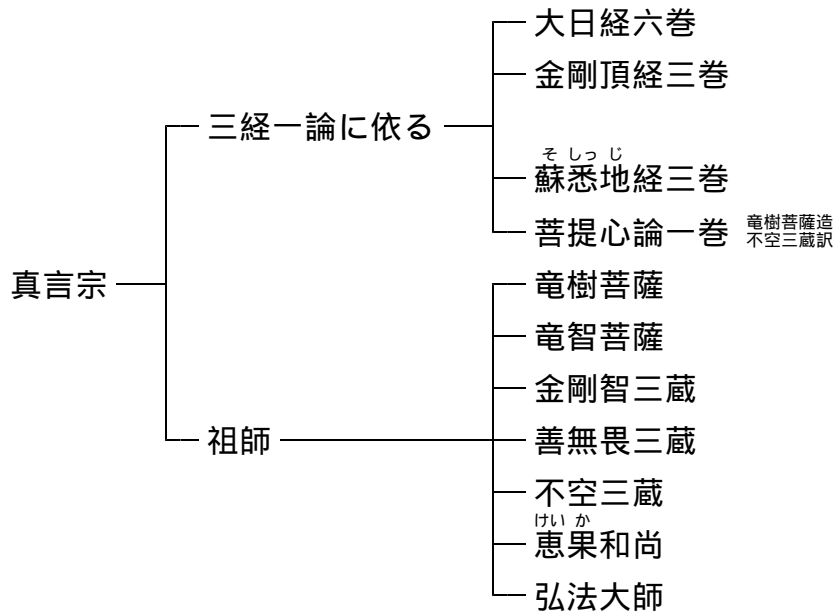
一代五時鶏図

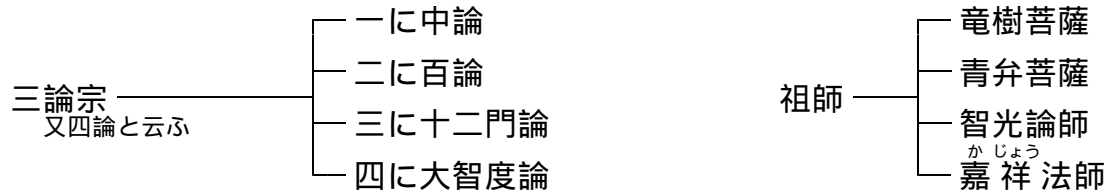
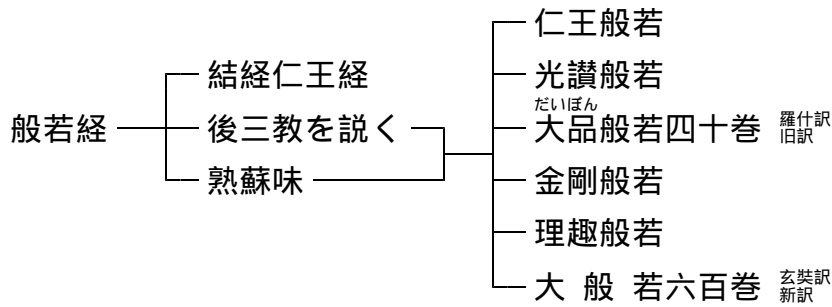
だいろん
大論に云はく 竜樹菩薩造 「十九出家三十成道」云云。涅槃經に云はく「八十入滅」云云。



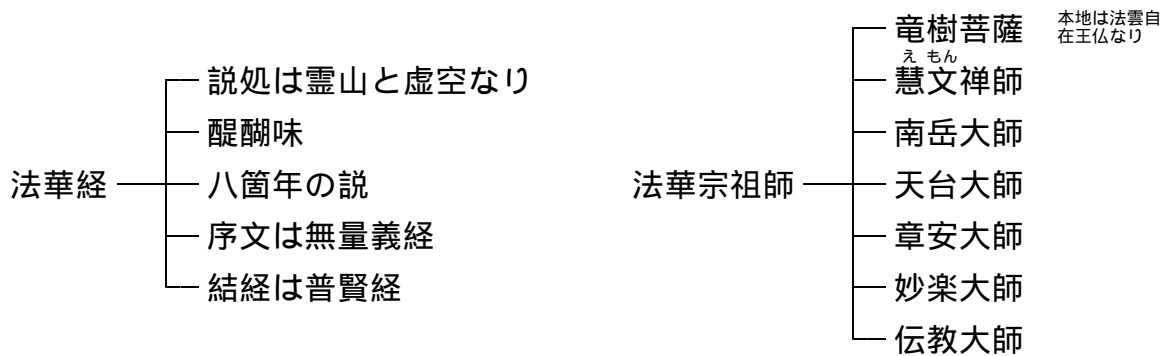


又仏心宗とも云ひ
又達磨宗とも云ふ



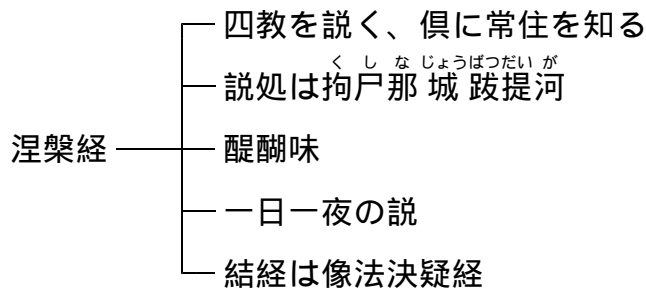


無量義經に云はく説法^わ品^れ「我先に道場菩提樹下に端坐すること六年にして阿耨多羅三藐三菩提^{あのくたらさんみやくさん}を成ずることを得たり。仏眼を以て一切の諸法を觀ずるに宣説すべからず。所以は何、諸の衆生の性欲^{しやうよく}異なることを知れり。性欲^{しやうよく}異なるれば種々に法を説きき。種々に法を説くこと方便力を以てす。四十余年には未だ眞實を顯はさず」と。又云はく「我樹王^{たはらなるくやおん}を起つて波羅奈鹿野苑の中に詣つて、阿若・拘隣等の五人の爲に四諦の法輪を転ず」「次に方等十二部經、摩訶般若、華嚴海空を説いて、菩薩の歴劫修行^{りやっこう}を宣説す」と。又云はく「無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぐれども、終に無上菩提を成ずることを得ず。所以は何、菩提の大直道を知らざる故に、險徑^{けんぎやう}を行くに留難多きが故に」と。又云はく「大直道を行じて留難無きが故に」と。



法華經に云はく「世尊は法久しくして後、要^{かなら}ず^{まさ}当に眞實を説きたまふべし」と。又云はく「種々の道を示すと雖も、其れ^そ實には仏乘の爲なり」と。又云はく「正直に方便を捨て、但無上道を説く」と。第二に云はく「將に魔の仏と作つて我が心を悩乱するに非ずや」と。又云はく「今此の三界は皆是我が有なり。其の中の衆生は悉く是吾が子なり。而も今此の処は諸の患難多し。唯我一人のみ能く救護を爲す」と。又云はく「若し

人信ぜずして此の經を毀謗せば、即ち一切世間の仏種を断ぜん」と。又云はく「其の人命終して阿鼻獄に入らん。一劫を具足して劫尽きなば更に生まれん。是くの如く展転して無数劫に至らん」と。又云はく「但樂って大乘經典を受持して乃至余經の一偈をも受けざれ」と。第四に云はく「爾の時に宝塔の中より大音声を出だして歎じて言はく、善哉善哉釈迦牟尼世尊、能く平等大慧、教菩薩法、仏所護念の妙法華經を以て大衆の為に説きたまふ。是くの如し、是くの如し。釈迦牟尼世尊、所説の如きは皆是真實なり」と。



涅槃經に云はく「法に依って人に依らざれ、義に依って語に依らざれ、智に依って識に依らざれ、了義經に依って不了義經に依らざれ」と。同十七に云はく「如来は虚妄の言無しと雖も、若し衆生を知りぬれば虚妄の説に因る」と。